

第 11 回圧力設備規格審議委員会 議事録

1 日 時: 平成 22 年 2 月 17 日 (水) 14:00~17:00

2 場 所: 溶接学会会議室

3 出席者: (敬称略)

委員: 酒井委員長(TEC), 佐藤副委員長(日揮), 青木(東電), 内野(東ガス), 石毛(IHI),
酒井(電中研/緒方委員代理), 能登(千代田), 鈴木(KHK), 田原(石連),
樋口(IHI テクノ), 寺田(神戸製鋼), 吉田(三井造船), 辻(東京電機大)

原案作成者: 柴崎(千代田 A.S), 政友(住化)

事務局: 河野、田中(HPI)

以上 17 名(委員数 13 名)

4 資料番号: 圧力設備規格審議 -11

- 1 第 10 回圧力設備規格審議委員会 議事録案
- 2-1 圧力設備規格審議委員会 書面投票結果 (HPIS Z107-1TR:2009)
- 2-2 圧力設備規格審議委員会 書面投票結果 (HPIS Z107-3TR:2009)
- 2-3 委員のコメント又は意見, 対応策及び対応策に対する意見表 (HPIS Z107-1TR:2009)
- 2-4 委員のコメント又は意見, 対応策及び対応策に対する意見表 (HPIS Z107-3TR:2009)
- 3 HPIS Z106:2009(リスクベースメンテナンス)
- 4 事務局報告事項

5 議事

酒井委員長の司会のもと, 出席委員数が委員会成立の定足数を満たしていることが確認され, 以下の議事が進められた。

5.1 前回議事録の確認

資料 10-1 により, 前回議事録案が読み上げられ, 一部修訂の上, 挙手により全員一致で承認された。修訂点は次の通りとする。 6 項 c)の文中の “・・・C108・・・” を C106 とする。

5.2 HPIS Z107-1TR:2009「RBM ハンドブック第 1 部: 一般事項」および

HPIS Z107-3TR:2009「RBM ハンドブック第 3 部: 応力腐食割れの損傷係数」書面投票結果について

5.2.1 投票結果について

事務局より Z 107-1TR、Z 107-3TR の 2 件の投票結果が報告された。

各々、投票総数は 22 票で書面投票は成立し、賛成投票数は 22 票で可決の決議となった。

なお、各書面投票結果の記載事項に誤りがあり、以下のとおり訂正した。

- ・各書面投票結果の 3 項における表中の決議議案の記載事項を、各書面投票結果の 1 項における表中の決議議案記載事項とする。

5.2.2 書面投票結果の審議及び決議

資料 “委員のコメント又は意見、対応策及び対応策に対する意見表” (資料 No.11 2 3 及び 11 2 4)をもとに、RBM 委員会の政友委員より説明がなされた。また、委員長より、各委員の

コメントに対しての修正は、編集上の修正と判断したとの報告があり、審議が行われた。審議の結果、以下の付記を踏まえ、コメントの対応策について了承され、書面投票結果は承認された。

Z 107-1TR に関して

- ・ 整理番号 1 16、1 17 の用語の使い方については、運用上で問題が生じれば、見直す。
- ・ 整理番号 1 19 の転用許可を受けた表の記載内容については修正できないが、誤解を生じないように、注記を付ける等の処置を行う。
- ・ “ 対応策に対する意見 ” 欄で空欄になっているものは、あらためて該当の委員より意見をいただき、その対応についても処理する。また、追加処理した意見表については、各委員に提示する。

Z 107-3TR に関して

- ・ 整理番号 1 10 の記載内容を “ あとがき ” にすることのコメントに対して、HPIS A102 の規格作成基準に “ あとがき ” の様式がないことで解説としたことに関して、同規格に “ あとがき ” を入れることを検討してはどうかとの意見があった。
- ・ 意見表の処置については、 の記載と同様とする。

5.3 HPIS Z106:2009「リスクベースメンテナンス」修正案の審議について

前回の審議委員会で承認されたが、規格書全般について編集上の見直しが求められ、再度、RBM 委員会で見直し、修正したものについて審議された。

資料 11 3 をもとに柴崎 RBM 委員会委員より主な修正の要旨及び修正箇所についての説明がなされた。(資料中の青字：語句修正と追加、赤字：削除を表す)

主な修正の要旨と修正箇所：

- (1) 内容を大きく変えたものはない。
- (2) 本文では、和文として解り易い言い回しとした。
- (3) 標題を内容に照らし、より適切なものに直した。それに伴って、不要になったものは削除した。
- (4) 附属書にも序文を追加した。それに伴い各附属書を見直した。
- (5) コメントに対応するよう修正した。
- (6) その他、主な修正箇所について説明された。
 - ・ P9 の表：No.2、20、21、36 の日本文を一部修正した。
 - ・ P12 の標題は、・・・考え方 に直した。また、以降は、コメントに対応するよう修正し、適切な使い方に修正した。
 - ・ P25：“絞込み”は、“スクリーニング”
 - ・ 附属書 E：図中は、一般的な名称に直した。
 - ・ 表及び図の No.は、附属書の表、図であることが判るようにナンバリングした。

また、今後、運用していく中で、日本文の表現については見直していくことが付け加えられた。

以上の説明内容について、以下を踏まえることで了承され、パブコメに付すことが承認された。

- ・ P1、3 項に記載の “ 再評価の手順 ” について、図 1.リスクベースメンテナンスの実施手順の流れの中に組み込むこと。

- ・全般に亘って、まだ誤字、脱字、不整合等が見受けられる。再度、見直すこと。

5.4 事務局報告事項について

資料 11 4 により事務局から 2 件報告された。

5.4.1 JIS B8226「破裂板式安全装置」の改正について

1 月 21 日、経済産業省、標準化推進室で日本規格協会とともに行われたヒアリングの結果について報告された。

5.4.2 委託業務としての HPIS の作成について

外部より、委託業務として 2 件の HPIS 作成依頼があり、4 月以降に着手し、8 月に圧力設備規格審議委員会に諮られる計画であることが報告された。(材料規格および爆着継手に関して)

6 その他

委員の出欠に関して、委員は各自の出欠が委員会成立の要件になっていることを今一度認識し、委員会に臨んでほしいとの意見があった。副委員長より、次期委員改選に際しては、この認識を持てる委員の選任が不可欠との意見が述べられた。

7 次回委員会予定について

委員長、事務局にて調整することで了承された。

以上